

経営比較分析表（令和6年度決算）

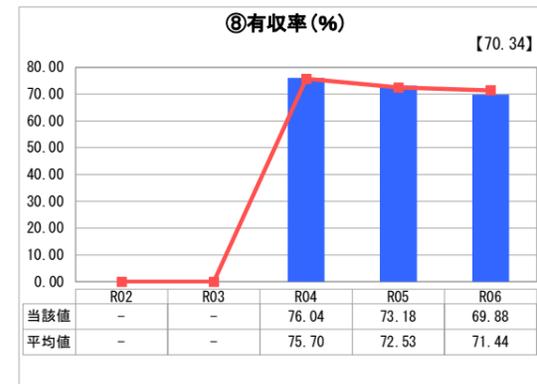
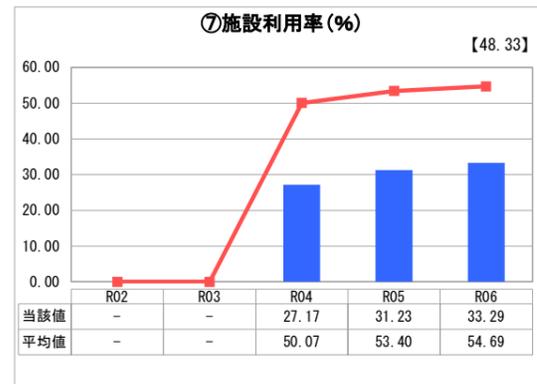
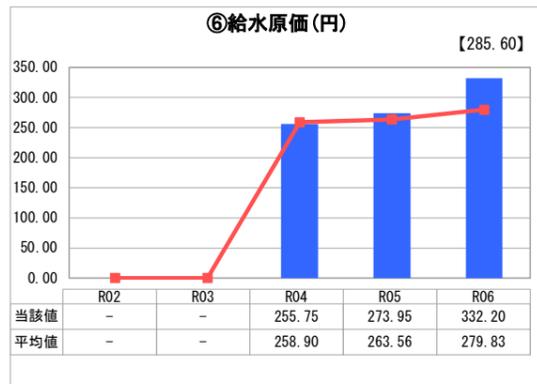
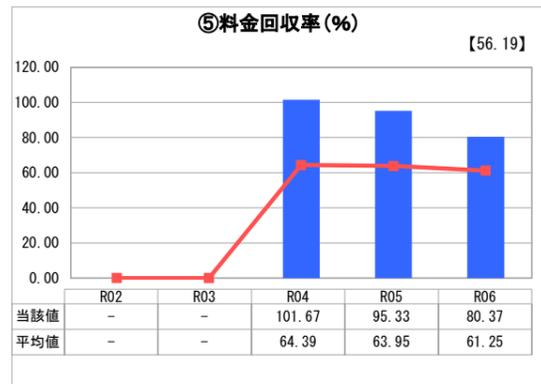
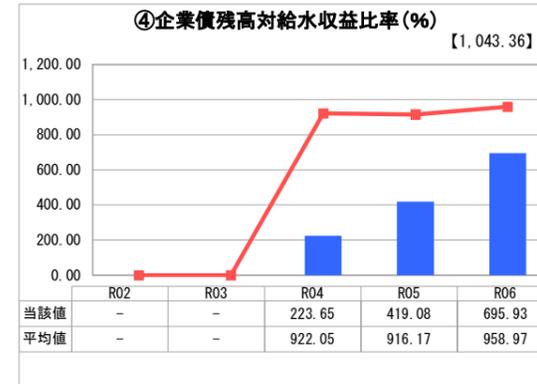
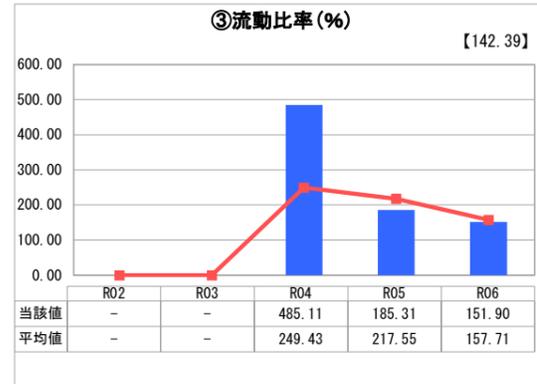
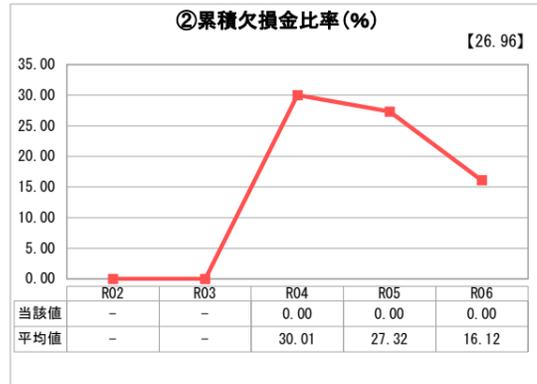
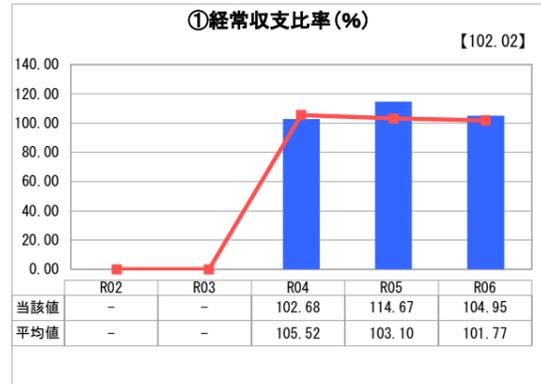
和歌山県 高野町

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	簡易水道事業	C3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	48.43	86.29	4,050	

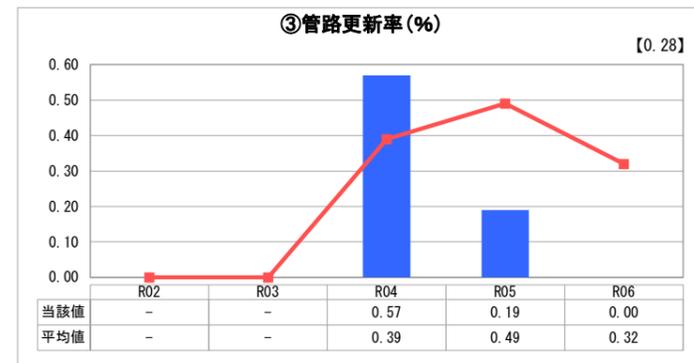
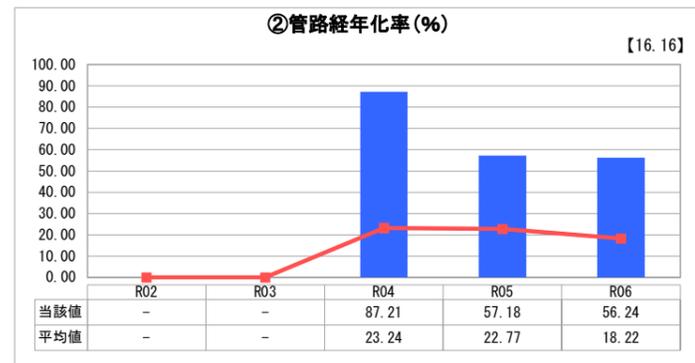
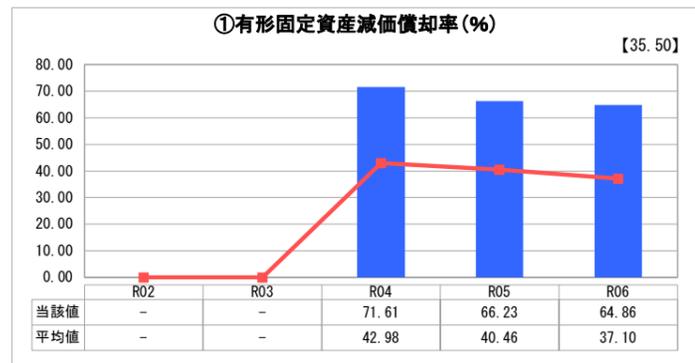
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,605	137.03	19.01
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,235	5.10	438.24

グラフ凡例	
■	当該団体値(当該値)
—	類似団体平均値(平均値)
【	令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

令和4年度に上水道事業から高野簡易水道事業へ変更認可を行ったため、令和3年度までの比率が記載されていない。また、令和5年度に富貴簡易水道が法適用して加わったため、指標の変動要因となっている。

- ① 経常収支比率については、前年度から9.72ポイント悪化した。これは、主に物価高騰による経費の増加並びに支払利息の増加によるものである。
- ② 欠損金は発生していない。
- ③ 令和6年度も事業量が多く未払金が多額となったため、昨年に引き続き流動比率は下がったものの100%を超える水準であり問題はない。
- ④ 企業債残高対給水収益比率は、事業に伴う起債により悪化した。類似団体平均値を下回っており、企業債への依存度は低いといえる。
- ⑤ 料金回収率は高野簡易水道単独では100%を超えているが、富貴簡水が35%と低く、全体を押し下げる要因となっている。
- ⑥ 給水原価は、昨年度から高くなり類似団体の平均値を52.37円上回った。これは、有収水量は増加したものの、物価高騰等の影響により営業費用が増加したこと、建設改良事業の特定収入に係る消費税額の雑支出処理額が多額であったためである。
- ⑦ 施設利用率は、類似団体の平均水準を下回っていることから施設更新にあたっては、施設規模や設備仕様の適正化について検討する必要がある。
- ⑧ 有収率は類似団体平均と同程度であるが、今後も漏水調査や老朽管路の計画的更新を継続する必要がある。

2. 老朽化の状況について

- ① 有形固定資産減価償却率は、富貴簡水の編入により数値が若干低下しているが、法適用時には、それまでの減価償却累計額を控除した金額を帳簿原価として計上している。このため、当該指標は資産の実態を必ずしも十分に反映しておらず、実際には施設や設備の老朽化が進行している状況にある。
- ② 管路経年化率は類似団体平均を大きく上回る高い水準で推移している。高野簡水が昭和11年度の供用開始から80年以上が経過しており、多くの管路施設が更新の時期を迎えているためである。
- 一方、③ 管路更新率は低水準にとどまっており、更新対応が十分とはいえない状況にある。このため、基幹管路を中心に、老朽化した管路の計画的な更新を進める必要がある。

全体総括

昨年度は富貴簡水の編入による影響が数値に表れていたが今年度は比較的安定した状況となっている。高野簡水については、現時点では経営の健全性は概ね良好な水準を維持している。富貴簡水は料金回収率が100%を大きく下回っており、一般会計からの繰入金に依存した事業運営となっている。

施設面では、簡易水道事業へ認可変更したことにより、国庫補助金の活用が可能となった。一方で、人口減少の進行により給水人口の増加は見込みにくく、管路施設を中心とした老朽化への対応に加え、将来人材の確保の困難性や物価高騰による経費負担の増大など、将来的な事業のリソース確保が大きな課題となっている。

今後はこうした課題を踏まえ事業の持続性を確保するため、経営効率化と計画的な施設更新を進め、健全な事業運営の維持に努めていく必要がある。